

令和六年度 中学生の「税についての作文」受賞作品

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会優秀賞

いい税金の使いみち

武蔵野市立第一中学校 竹田 愛麻

東京納税貯蓄組合総連合会会長賞

私たちの未来のために

武蔵野市立第一中学校 水野 ひかる

税金の使い途を身近に感じた出来事

武蔵野市立第五中学校 築瀬 なつみ

武蔵野納税貯蓄組合総連合会会長賞

大勢の人の命を救うために

武蔵野市立第二中学校 酒井 日向

東京国税局長賞

あなたと話したい公債金、国債費

東京都立武蔵高等学校附属中学校 森本 あかり

武蔵野税務署長賞

「税金エンプ」脱却を目指して

武蔵野市立第一中学校 瀬尾 一真

東京都立川都税事務所長賞

累進課税制度の課題と対策

東京都立武蔵高等学校附属中学校 谷口 蒼依

武蔵野市長賞

学校の建替えの意義とその経過

武蔵野市立第一中学校

松本 ころろ

武蔵野市教育長賞

無料で読める本

武蔵野市立第一中学校

飯倉 結菜

東京税理士会武蔵野支部支部長賞

小さなものに大きな目的を

東京都立武蔵高等学校附属中学校

山口 福太郎

一般社団法人武蔵野青色申告会会長賞

「怪我を通して知る税のありがたさ」

学校法人井之頭学園藤村女子中学校

秋葉 結月

公益社団法人武蔵野法人会会長賞

今までの税とこれからの税

武蔵野市立第一中学校

阿相 渉

武蔵野間税会会長賞

世界の税はおもしろい

武蔵野市立第六中学校

久保田 及文

武蔵野納税貯蓄組合総連合会優秀賞

※作文名・お名前のみのご紹介となります

誰かを支える税金

武蔵野市立第三中学校

津 畠 南 来

税金と私の関わり

武蔵野市立第四中学校

松 井 湧 丈

私達の生活を支える税

学校法人聖徳学園中学校

鎌 田 理 聖

武蔵野納税貯蓄組合総連合会会長感謝状

武蔵野市立第五中学校

学校法人井之頭学園藤村女子中学校

いい税金の使いみち

武蔵野市立第一中学校 三年 竹 田 愛 麻

公的機関に勤めている私の父は税金の話が好きだ。N I S A、i D e C o、ふるさと納税、確定申告の方法など、日々、いかにして節税ができるかを調べている。ほとんどが税金で運営されている図書館には毎週のように通い、購入された新刊図書が自身の読みたい本だと

「いい税金の使われ方だ。納税の甲斐があった。」

などと言う。加えて公的な美術館や博物館にも好き好んで足しげく通う。父にとつての税金にまつわることは全て自身のことであり、趣味や生きがいのようにすら見える。

また、父は税金の使われ方について興味津々である。小学校の頃、私は絵を描くのが好きであつたこともあり、学校で配られたプリントに募集のあつた「税に関する絵はがきコンクール」に応募した。賞をいただき、今でも記念品の犬のぬいぐるみは私の宝物だ。」それだけ興味のあつたはずの税の使われ方について、恥ずかしながら私は十分に理解しておらず、身近にある医療費や学校の教材など「目に見える使われ方」にしか意識を向けていなかった。しかしそれは使われ方のほんの一部であつて、「目に見えない使われ方」の存在は知らなかった。今回、作文を書くにあたって調べてみると道路の整備や国の防衛にも使われていることが分かり、私たちの生活のあらゆるシチュエーションで、税金に助けられていることに気付いた。今まで全く意識していなかった私は、見える世界が変わつたような気持ちになった。多くの人は常日頃から税金の細かな使われ方について意識していないように思う。父のような極端な例を除けば、普通の人が税について意識するのは選挙の争点となるなど、自身の納税の負担に関わる時くらいではないだろうか。しかし、税金は単に支払うだけではなく、我々の生活を支えるために大切に「使われる」お金である。先に述べた図書館などの施設や学校など、身近な生活インフラはもちろん、歳出としてトップである「社会保障費」として使われ、人々の生活を支えているのである。

今後、私が働き手となる頃には、社会保障費を支える立場である我々の世代が減少し、一人あたりの負担が大きくなることが問題視されている。将来はITや高齢者のヘルスケア技術の進歩により納税者の社会保障負担が縮小し、自身が保障の主な受け手となる父が、現在同様、税金の使われ方に満足している社会が実現することを私は願っている。

私たちの未来のために

武蔵野市立第一中学校 三年 水野 ひかる

税金は社会を暮らしやすくするために使われている。

中学三年生の今、税金の使い道で一番の関心事は、高校授業料無償化である。

無償化制度は、お金の問題で希望する進路を諦める事なく、現状を変え、やりたい事を実現するために役立つものである。

身近な例として、中学校にあるもののほとんどは税金で購入されている。また、私たちが使用している教科書についても、昭和三十八年に学校教育において初めて無償化制度が実施され、現在に至っている。

そして、近年では学校給食無償化を目指す自治体が増えており、七月には私が在住する市でも適用されることになり話題となった。今回、教育に関する税金を調べた結果、五兆円以上の税金が私たちのために使用されていることが分かった。

私の親は公立の小学校に勤務しており、給与は公務員という立場で税金が使用されている。近い未来、大学も無償化になる構想があるようだが、教育だけではなく教育関係者の人件費においても、国や地方自治体の財政負担は増す一方であると考えた。

高等教育の無償化は、初めにも述べたように「生まれた家庭の経済状況によらず、どんな子供でも希望すれば高等教育を受けられる制度」という理念を目指しているが、それを実現させるのは難しい。特に大学の高額な学費を完全無償化することは、膨大な予算が必要である。そのため、無償化される兄弟数や人数、援助できる学費や世帯年収の上限など制限せざるを得ない形で実施を予定している。

それでも私はたとえ数が少なくとも、助けられる人は援助する必要があると思う。少なからずこの制度は国のために優秀な人材が輩出される可能性が高いからである。

教育費の無償化は、税金の助けを得た優秀な学生や夢を持った子供たちが、学費を諦めることなく、将来その恩恵を返すことで、税金の使用目的である「社会を暮らしやすくする」に対し、貢献できる人材投資であると私は考える。

今回税についての作文を書くことにより、自分のために受験勉強は大切であること、何故勉強が必要で、知識を得なくてはならないかを理解した。

高校授業料無償化について私は当初、少子化対策の一環という認識でしかなかった。しかし、実際には多くの税金が使用されており、それは私たちだけでなく、将来暮らしやすい日本社会のための投資であることも学んだ。

私は学生で、普段消費税以外の税金を意識することは少ないが、与えられた教育という環境に感謝の気持ちを忘れず、将来的には納税者という立場で社会貢献できるように頑張りたいと思う。

税金の使い途を身近に感じた出来事

武蔵野市立第五中学校 三年 築 瀬 なつみ

私は中学三年生。受験生だ。夏休みということもあって、都立高校、私立高校、色んな高校を調べている。

私は海外の文化を知ることが好きなのと、世界のたくさんの人々と話してみたいので、今英語の勉強を特に頑張っている。だから高校を調べる際は、英語学習に力を入れているか、修学旅行は海外か、短期留学制度があるか、などを参考に使っている。

調べていく過程で、全ての都立高校生が利用できる海外派遣事業が、東京都はとても充実していることを知った。「次世代リーダー育成道場」という制度を皆さんはご存じだろうか。私は調べてみて初めて知った。都立高校生二百名をオセアニアか北米の二コースで海外派遣する制度で、約一年の留学費用は八十万円とのこと。経済的理由があればそれも減免される。一年間の留学となると、どの国でも衣食住含め数百万円を考えないといけないので、破格と言つていいと思う。事前学習プログラムも充実しており都の運営なので安心でき、都立高校生は海外留学のチャンスを経済的理由で諦めずにチャレンジできることは素晴らしいことだと思った。

また、住んでいる市区町村ごとにも海外の姉妹都市との交流事業などがあり、私の住む武蔵野市では今年、市内在住の中学生をアメリカ合衆国テキサス州ラボック市等へ派遣する「武蔵野市ジュニア交流団」事業、市内在住または在学の中学生、高校生を大韓民国ソウル特別市江東区、忠州市へ派遣する「青少年交流団派遣」事業が行われたことを知った。

税金の使い途は多種多様過ぎて、このように自分ごとに関係した事業ではないと、なかなか税金の使われ方について調べ、知り、その有益性について深く考えるような機会はなかったと思う。今回私は、東京都が都立高校生に対し、想像を遥かに上回る莫大な予算を計上して海外派遣事業に力を入れてくれているのを知ることができ、東京都が私たち若者に「世界で通用する人物に成長して欲しい」と、強く期待してくれていることを感じた。だから、益々、英語の勉強を頑張ろうと思うようになった。

これを読んで下さった皆さんも、自分に関係のある分野、興味のある分野の公共事業について、税金の使われ方を調べてみてはどうだろうか。私は中学生なのでまだ税金を納める立場にないが、みんなが納めた税金がどのように使われているか知るとは、社会参画の中の大切な一歩のように思う。これからもこの意識を忘れずに生活していきたい。

あなたと話したい公債金、国債費

東京都立武蔵高等学校附属中学校 三年 森 本 あかり

公債金、国債金ってなに？国の歳入、歳出の円グラフを見る度、いつもそれぞれ大きな割合を占めているため、自然と目に入る。しかし説明には、「国の借金」また「公債金を返したり利子を支払ったりするお金」のみ。随分大雑把であるし、よく聞く税金や社会保障費に比べたら存在感薄め。私は、これら得体の知らない公債金、国債費が一体何者なのか、自分で確かめたいと思った。

調べたところ、公債金は、予算が税金だけでは賄えないために国が企業や国民から借りる借金、国債費は公債金、またはそれに伴う利子を払うための税金であることが分かった。

様々な課題が山積みする近年、予算が膨らみ続ける一方で、税収が支出に追いつかない。それを補うのが公債金の役割であるが、返さなければいけない国債費は年々増加し、令和六年度末には、わたしたち国民が納める税金の約十六年分に相当する約一一〇五兆円にもなると見込まれている。市井の人々の想像も及ばぬ莫大な借金を国が抱えていることを、どう受け止めれば良いのだろうか。追及すると、受け止め方は二つに分かれるようだ。

まず一つは、借金容認派。借金総額だけではなく、国が保有する資産とのバランスに着目すれば、日本の借金額はむしろ世界的に少ないうえ、国や日本銀行には貨幣発行権があるから必ず返済できるという考え方だ。

二つ目は借金反対派。一般的な観点である対GDP比で借金総額をみると、日本は先進国の中で突出して高い水準にあり、また国債を発行することは、赤字の賄うために行うべき増税を先延ばしにすることと同じだという考え方だ。

私は借金反対の考え方を推す。貨幣発行権があると言っても、この権利を乱発すると、極端なインフレーションを起こすし、そのため日本銀行は簡単には貨幣を刷ることはできない仕組みになっていて、非現実的な解決策だと思うからだ。何より、巨額な借金を抱えて良いはずがない、という強い気持ちがある。

少子化には社会保障費を、国防には防衛関係費を、そして公債金、国債費の解決のために国は何を提示するのか。この大きな問題から目をそらすことはできない。現状、増税を先延ばしにして、将来の国民に負担を投げているのではないか。私は国が公債金や国債費についてどう対応するのか、今よりも世間に伝えるべきだと思う。

しかし、同時に国民の注目度を高めることも不可欠だ。今、国の借金について知っている、もしくは興味を持っている人は少ないのではないだろうか。けれども、私たちは知り、考える必要がある。それは今の私たちから、ひいては将来の私たちのためだ。多くの人が考えて、議論をすることで、新たな考え方や、より良い解決策が生まれると思う。だから私は、これを読んだ全ての人に聞きたい。

あたなはどう考えますか、と。

大勢の人の命を救うために

武蔵野市立第二中学校 三年 酒 井 日 向

気温が高くなるにつれ、今年も連日「救急車のひっ迫アラート」が発令されている。

私は市内の消防少年団員として活動しているので、救急車と税金の関わりについて詳しく調べてみようと思った。

日本では、救急車を利用する際、納税の有無や国籍に関わらず、必要な医療行為を受けながら、原則無料で病院に搬送してもらえる。日本の他に救急車の利用が無料の国は、香港、イギリス、スウェーデンなどあるが、無料の国は少なく、多くの国や都市では料金を支払わなければならない。

日本の救急車の利用が無料とはいえ、実際には多額の費用がかかっている。救急車が1回出動するのに必要な費用は4万5000円かかるそうだ。救急隊1隊を組織するには、救急車1台（車両代と器材費で2700万円）の他、救急救命士を含む隊員や車両基地の整備等が必要になる。さらに車両メンテナンス費やガソリン代、医療機器や物品の購入費も必要だ。総務省のホームページで調べたら、令和5年の救急出動件数は約764万回だった。これに1回の出動にかかる費用4万5000円をかけてみると、約3438億円にもなった。これら全てが税金で賄われている。

しかし、無料と思って安易に救急車を呼ぶ人が後を絶たず、いま社会問題となっているそうだ。消防署で隊員の真剣な訓練を間近に見ているので、いたずらに利用する人がいる事を知って、胸が痛んだ。

このままの状態が続けば、諸外国のように有料化されるかもしれない。

有料化されれば、いたずらに利用する人は減るだろう。しかし、支払いができないという理由で、病気や怪我の苦しみを我慢しなければいけない人も出てきてしまうのではないだろうか。制度を変えたことで、いままで救えていた命が救えなくなってしまうことは絶対に避けなければならない。

そのためには私達ひとりひとりの意識を変えていく必要がある。

救急車を呼ぶ判断に迷った時は、東京消防庁救急相談センターに電話をかけて、医師や看護師から対処法を教えてもらえること、病院に行く時に公共機関やマイカーでの移動が困難な場合は、民間救急車を手配する、といった手段があることを全ての人が知っておくべきだと思う。そしてなにより、救急車のサービスは私達ひとりひとりが納めた税金で成り立っていることを決して忘れないことが重要だ。

いざという時に、日本にいる誰もが安心して救急車を利用できるように、これからも無料の公共サービスであり続けてほしいと思う。

「税金エアプ」脱却を目指して

武蔵野市立第一中学校 三年 瀬尾 一 真

正直、僕は税金に関して深く考えたことがなかった。まだ中学生である自分が税金を払う場面というのはせいぜい物を買う時ぐらいである。だから税金の苦しさも理解できないし、目に見えてなにか助けられている気もしないため特別素晴らしいと思う感情もない。この作文にも何を書けばいいか全く思い付かなかった。でも取り敢えず税金の使い道について調べてみた。前々から知ってはいた事だが、医療、年金、介護などあらゆる場所に税金は使われていた。使われていない場所などないのではと思うくらいに。その中でも教育に使われる税に、僕の目は止まった。中学生一人に対し、一年間で賄われる額は百万近くまでのぼる。これにも十分驚かされたが、一番はこれではなく、具体的な使い道に関してだった。学校の備品や建設費の他、教科書に関しては全額を負担している。これを見たとき、僕は自分のことを無性に引っぱたきたくなった。すっかり目に見えて助けられているのではないかと。更にいえば、この話も初めて聞く話ではない。それなのに自分は、助けられている気がしないと思っていた。この時、僕は「ある事」に気付いた。自分は「深く考えてこなかった」のではなく、「考えることすらしてこなかった」のだと。聞いた事があっても、それを理解しようとしなければ意味がない。にも関わらず僕はそれをせず、知った気になっていた。僕は言うなれば、「税金エアプ」だったのだ。

僕はこの状況を打破するため、税金について更に調べた。税金と国民はお互いに支え合う関係にあること、税金には様々な種類があり、中には入湯税や都道府県民税など聞き慣れないものがあること、金額によつてはお年玉も贈与税の対象になることなど、沢山の税に関することを学ぶことができた。しかし当然ながらこれだけでは「税金エアプ」の名から抜け出すことはできない。これから日々税金に関して知識を深めていく必要がある。

そしてそれは自分だけに限ったことではないと個人的には思う。世の中には僕を含め、税金のことをあまり知らない「税金エアプ」の人が少なからずいる。これからの社会をよりよくしていくにはこの「税金エアプ」から少しずつでも抜け出していくことが大事だと僕は考える。

累進課税制度の課題と対策

東京都立武蔵高等学校附属中学校 三年 谷 口 蒼 依

累進課税制度は、所得が増えるほど高い税率が適用される制度であり、所得の再配分と社会的公平を促進するために設けられています。この制度は税の負担を所得に応じて公平に分配することを目的としています。運用に際していくつかの課題も存在します。

まず、累進所得税の導入背景を考えます。十九世紀末から二十世紀初頭にかけて、多くの先進国が累進課税制度を採用しました。産業革命によって富が急速に集中し、社会的格差が拡大したため、所得の再分配を通じて貧富の差を縮小し、社会的安定を図るために導入されたのです。高所得者が多くの税を負担し低所得者は少ない税で済むという仕組みが、この制度の基本的な考え方です。

累進課税所得の利点には、所得の再配分と公平性の向上があります。高所得者がより高い税率で課税されることで、低所得者への福祉支援や公共サービスの充実が可能になります。これにより、社会全体の格差が緩和され貧困層の生活向上が期待されます。また累進課税は、個人の所得に応じて税負担を調整するため、税の公平性が増します。

しかし、累進課税制度にはいくつかの課題も存在します。まず税の回避や脱税のリスクです。高い税率が適用されることで、一部の高所得者が税金を回避するための法の隙間を突いたり、海外に資産を移転することがあります。この問題に対処するためには、税制の透明性を高め、税務当局の監視体制を強化することが必要です。具体的には、税制に関する情報公開や、高度なデータ解析技術を活用した税務調査の強化が考えられます。

次に、経済活動への影響についてです。高い税率が企業や個人の投資意欲を削ぐ可能性があります。この問題を緩和するためには、税率の引き上げ幅を緩やかにすることや、特定の産業や地域への税制優遇措置を設けることが有効です。例えば研究開発費用や設備投資に対する税額控除を導入することで、企業の成長を支援し、雇用創出につなげることができます。また中小企業やスタートアップ企業への特別措置も考えられます。

所得の階層に応じた公平な負担の実現には税制の透明性と明確化が求められます。税率の階層とその適用基準を明確にし、納税者に対して分かりやすく説明することで、納税者の理解と納得を得ることができます。さらに収入保障政策や社会福祉制度を充実させることで、所得の少ない層の生活を支援し、長期的な格差の是正を図ります。最低賃金の引き上げや、失業手当、生活保護制度の充実がその一例です。

累進課税制度は、所得の公平な分配と社会的安定を実現するための重要な手段ですが、その効果的な運用には慎重な配慮と具体的な対策が必要です。税制の透明性を高め、国際的な協力を進め、経済活動に配慮した税制設計を行う必要があります。

学校の建替えの意義とその経過

武蔵野市立第一中学校 三年 松 本 こころ

私が通う武蔵野市立第一中学校は、今現在建替え工事を行っています。大規模なその光景を見てふと思いました。「この工事ではどのくらいのお金をどのように集めたのか」と。そこで私は、武蔵野市の学校の建替えがどのように行われてきたのか、興味を持ちました。

調べてみると、武蔵野市は、比較的早いインフラ整備を行ってきた歴史がありました。上下水道などの公共施設に加え、道路整備に市だけでなく東京都からの施設整備補助金等を活用し、愛市公債の発行などで住みやすいまちづくりを行えました。そして、経年劣化もあり、耐震化を目指す意味でも市内の小中学校の建替えについて未来のために武蔵野市及び武蔵野市教育委員会は計画を立てました。

学校施設の更新は多大な費用と時間を要し、市政に大きな影響を与えるため、着実かつ計画的に実施できるよう、学校施設整備計画を立てました。今後二十余年りを見据えた目指すべき学校施設の基本的な方向性と、具体的な施設整備方針及び標準的な仕様を定めました。そしてこの計画に基づき、更新時の物理的余裕及び地域性を鑑み、学校ごとに検討を行っていくことになりました。

つまり、市全体にとつての未来に向けた安心安全なまちづくりに、数十年にわたる長期計画と財政のかけ方、市の歳入の中から校舎建替え費用を積み立てながら、長年に渡って準備期間と建替え実施期間を設けてきました。

このような未来への計画的投資は、安定した財源、税金あつてのことです。

武蔵野市の方針では、既存の学校施設は市の築後六十年での改築を基本としますが、学校施設の建築年は一定時期に集中していることから、工事の集中を避けるため、改築計画策定にあたっては改築時期も多少前後させる必要がありました。

校舎棟によって、あるいは校舎棟と体育館棟によって建築年が違う学校がありますが、効率的、効果的な配置計画とするためには、一括して改築を検討すべきケースもあります。

このような市全体の計画の立て方と、市民参加型の「これからの理想の学校像」について長年議論されてきた経過を経て、いま我が武蔵野市立第一中学校の建替えが行われていること、それを私は強く感じました。私は新校舎での中学校生活を送ることはできませんが、後輩たちにとって素敵な校舎が完成されていくことを希望するとともに、私たちの納めた税を正しく計画的に財政運営されてきたことに感謝したく思いました。

無料で読める本

武蔵野市立第一中学校 三年 飯倉 結菜

配架、修復、在架予約の手配、ポップの作成、イベント企画、ブックカー掛け、レファレンス、蔵書点検、除架。これらは全て図書館の仕事だ。人と本をつなぐ大切な仕事を私達はどこまで理解しているだろうか。私達の見えないところで様々な仕事が続いていて、それに税金が深く関わっていることに気付いているだろうか。

私は小学生の頃、とても図書館にはまり込んでいた時があった。特にファンタジーの話の物語が好きだった。毎日のように図書館へ行き、沢山の本を読んでいた。しかし、中学に入ってから、だんだん行く機会が少なくなり、いつしか行かなくなってしまった。そんな私は最近、ある税金について書かれている本を読んだことがきっかけでまた、図書館に足を運ぶようになった。その本を読んだから今まで何もう気にしていなかった図書館の仕組みについて興味をもった。始めに述べた仕事も本で調べたのだが、もともと知っているものはほとんどなかった。本が無料で読めるのもあたりまえだと思っていた。

そして図書館は職員の給料や本を買うことに税金が関わっているが、図書館について知らないことは、税金についても詳しく分かっていないのではないか、と思った。本によると、税金を不公平だと思っている人の中には、自分だけが損をしたくない。図書館が利用できるのはあたり前。と思っている人がいるらしい。しかし、図書館の理解を深めることで税金への理解も深まり、市や街全体で協力していくことができると思う。では、どうすれば図書館を理解できるようになるのか。

例として、図書館を利用できるのは当たり前だという考えをあげると、まず、その原因に税金が何に使われているかを気にしていないからだと思う。本を無料で読めるというのは分かりやすいが、施設の設備や、検索すればすぐにほしい本が見つかる機械、分らないことにすぐ対応してくれる受付の人は、税金の上で成り立っている。それらが当たり前過ぎるために、なくなった時のことは想像も付かない。確かに、本を借りる時にいちいち税金について考えられないかもしれない。図書館に限らず、無料でもらえる物の出どころなど気にできないだろう。しかし、少しずつ意識を上げていき税金について理解できる人が増えていけば、納税に誇りを持ち、図書館のありがたみや大切さに気付けるはずだ。

私達はまだ消費税くらいしか払うことはないが、今、税金について理解を深め、将来に活かしていきたい。また、図書館の素晴らしさをより広めていきたいと思う。

小さなものに大きな目的を

東京都立武蔵高等学校附属中学校 三年 山口 福太郎

私は部屋の整理をしていると、学校で配られた大量の教科書に毎回頭を悩まされる。大量で片付けるのが大変だからだ。仕方なく教科書を一冊ずつ、いるもの、いらぬものとは分けていくと「こんなものあったの」と存在を忘れていたものが多くある。これらは、配られたもののほとんど使わなかったものたちである。

私は中学一年生から三年生までで、専科や主要教科、全部で五十冊近くの教科書を配られたが、その半分ほどは、ほとんど使っていない。関東に住んでいる私の学校だけなのかと思ったが、以前、新聞の投書で関西の中学生が、似たようなことを訴えていたのを見たことがあるため、これは全国共通のことなのだろう。

私は、教科書の値段を調べてみた。一人が中学一年生から三年生までにもらう教科書の値段の合計は、約一万五千円だった。もし、一学年が百六十人の学校で三分の一の教科書を使わなかった場合、一学年で約八十万円が無駄になっていることになる。おそらく、「教科書は必要だろう」と授業の内容を知らず各教科書の物をセットで買っているのではないだろうか。

使わない教科書は、紛れもなく税金で支払われている。しかし、これらは有効的に使われていない。もっと良い活用方法があると思う。例えば、エアコンである。

現在、公立中学校の体育館のエアコンの普及率は三・二パーセントでかなり少ない。私の学校もエアコンがなく、ジメジメとしてかなり暑い。夏は特にひどく、熱中症警報を知らせるアラートがずっとなり続けている。夏休み中の部活動では体調が悪くなる人も何人かいた。使わない教科書に税を使うより、エアコンをつけた方が子供のためになるのではないだろうか。

このような税の無駄使いの背景には、予算という大きな財源がゆえに、小さな費用に對し、税をなんとなく使っている部分があるのだと思う。これは、教科書だけに限った話ではなく、大量のプリントの印刷代もその例だ。今や一人一台配られているパソコンにデータを送れば、プリントは必要ないはずだ。このような安価だが必要のないものの積み重ねで税金は浪費されている。そうしてエアコンといった高額だが本当に必要なものが購入できなくなっている。学校は国民から得た税を使い、子供の命を預かり、健全に育てる施設である。特に税に對して、必要かどうかを考え、大切に使うべきなのではないか。しかし、これは学校だけではなく、税金全てに言えることだと思う。莫大な財源に惑わされず、一円一円に對し、大きな目的をもって使うべきである。そして、払う私たちも政府のその姿勢を知ること、税金を払うことが負担ではなく、未来への投資へと意識が変わるのではないだろうか。

怪我を通して知る税のありがたさ

学校法人井之頭学園藤村女子中学校 三年 秋 葉 結 月

中学二年生として出場する大会を終え、来年に向けての練習を再開したある日。私の左肘に激痛が走った。女子体操競技の種目の中で一番とも言えるくらい怪我をしやすい段違い平行棒の練習中、大会でも使用していた技で落下した際に誤って左手から落ちてしまった。私はこれまでも何度か骨折や骨挫傷をしている。しかし、今回は痛みが違った。怪我をした直後、先生はすぐに病院に連絡してくれた。ただ、怪我したのは日曜日の夕方。この時間に病院は空いていなかったの、ひとまず家で様子を見ることにした。

翌日、母と一緒に先生に紹介された病院に行った。普段とは違う痛みもあり、嫌な予感しかしなかった。

MRI検査をし、医師に告げられた怪我名は、「左肘内側靱帯断裂」。他にも剥離骨折や肉離れもしていた。その言葉だけでも泣きそうなのに、もしかしたら手術もしなければいけないとも言われた。聞いたこともない言葉が先生の口からどんどん出てきて、泣けないくらい絶望でしかなかったが、一緒にいた母もあまりにも衝撃的すぎたのか、何も話しかけてこなかった。ほぼ毎日のように働いている母にはどれほどの迷惑をかけてしまうのだろうか、もし手術となれば手術費や治療費はどのくらいになってしまうのか不安でいっぱいだった。

怪我から一週間が経った頃、肘の腫れを引かせる治療をするために大学病院を訪れていた。この治療は三週間で三回やるもので、かなりの効果はあると事前に先生から聞いていたが、治療費はものすごく高かった。三回目の治療が終わった日に、私は母に治療費のことで迷惑をかけてしまい申し訳ないと話した。すると母が言った。

「あなたの治療費は、うちからはほぼ出してないのよ。府中市には医療費助成があるの知ってるよね。」

確かに、小学生の頃に医療費助成のことを何度か学んでいたが他人事で全く覚えていなかった。もう一度ちゃんと調べてみようと思い、府中市のホームページを開くと、生まれてから高校三年生までの十八年間、病院での診察料や治療費、公立の学校なら給食費も助成されていることを知った。霧が晴れた。

怪我をしてもうすぐ一年。注射も打ち、辛いリハビリもたくさんあったが今は何もなかったかのように思いっきり練習ができています。今年の大会は技を増やすことはできなかったが、あの時は出場するのも難しいと思われていたので出場できたことが何よりも嬉しかった。不安でいっぱいだった私に勇気を与えてくれた医師、金額を気にせずに治療ができた府中市の支援医療には感謝しかない。コロナ禍でたくさんの方がたくさんの方の不安を抱えている時だからこそ将来子どもに伝えたい。納税の意味について、私たち大人が支えているから安心してね、と。

今までの税とこれからの税

武蔵野市立第一中学校 三年 阿 相 渉

夏休みに入って、受験生の生活が始まった。勉強をしているときに一学期の社会の学習を振り返った。一学期の最後には歴史から公民に切り替わった。そこで歴史を思い出したが、今まで習った中で、税だけでも何度も学習した。ここではそんな税の歴史を振り返り、考えながら、これからの税について考えようと思う。

日本の最初の税は、中国の魏志倭人伝に弥生時代に邪馬台国で、税が納められていたと記されている。飛鳥時代に行われた大化の改新では土地や人民を国家のものとする公地公民などが示され、七百年の大宝律令では、租、庸、調という税ができた。租は収穫の三パーセントを納め、都での労働か布を納める庸や、特産品を納める調は男子のみ対象だった。平安時代、農民は土地を持つ豪族に年貢や手工業製品、採取物で納める公事、労働で納める夫納などが税として課せられた。鎌倉時代は、経済の発達はあるものの、税の制度は平安時代とあまりかわらなかった。室町時代は主に年貢によって税を納めていたが、商業の発達により、商工業者にも税が課せられた。また、街道に設けられた関所では通行税などが課せられた。安土桃山時代では太閤検地が行われ、年貢を納めさせられていた。また、当時は収穫の三分の二を納めていた。江戸時代は株仲間による税が課せられる。また、年貢の地租が中心で米を納めていた。明治時代は地租改正により、土地の地価の三パーセントを地租として、貨幣で納めた。また、所得税や法人税もこの頃導入された。大正時代から昭和時代初期にかけては、戦費調達のため増税が続いた。一方で現在の税のしくみができ始めたのもこの頃である。平成時代に商品の販売やサービスの提供に対して三パーセントの消費税が導入された。また、消費税は五パーセント、八パーセント、十パーセントと増税された。

ここからこれからの税を考える。税の歴史の中で大きく制度が変わったことは何回かあったが、この中で自分が注目したのは納める税が作物から貨幣にかわったことだ。なぜ作物から貨幣にかわったのかはあえて調べず、自分で考えることにした。もし今、日本の税が作物に戻ったらどうなるか。まずメリットは食料自給率が上がった、第一次産業で働く人口の割合が増加したりすることだ。そしてデメリットは農家が増える分、日本の社会や経済が人手不足になることだ。また、作物を育てる田畑が足りないという課題がでてくるだろう。従って、今の日本が税を作物に戻すことはできない。明治時代に日本が税を貨幣で納めるようにしたのは、農地に限界があったことと、外国に追いつくためだったのではないか。

これからのことを考え、私は日本の現在の税の仕組みが最善をつくしてできたものだとわかった。

世界の税はおもしろい

武蔵野市立第六中学校 三年 久保田 及 文

この作文を読んでいる人へ、こんにちは。私は社会の授業が大好きな中学三年生です。苦手の数学のノートは文字もきたなく自分でも読めないほどです。でも社会のノートは無意識のうちにきっちりまとまっているので、びっくりです。とにかく社会の授業が大好きです。そんな社会の授業中、先生が、日本は消費税が増税されたけど世界には、もっと税が高い国があるんです。と教えてくれたのに衝撃を受け、すぐに先生に質問をしに行きました。そうしたら、デンマークの消費税が二十五%だそうです・・・さらに強い衝撃を受けました。そんなとき、この作文が配られました。これはもう、世界の税について調べるしかないです。

まず、先ほど述べたデンマークは、世界の中で税金が高い国です。そんなに税金を高くしたら国民は困りはててしまうでしょう。しかし、実際は違うのです。税金を高くすることで社会福祉が安定します。徴収された税金は、「待機児童の解消」「教育・保育の無償化」「介護職員の処遇改善」「高齢者の介護保険料軽減」などのために役立てられることとなっています。その通りデンマークでは福祉も介護も医療も無料、育児や障害者支援制度も充実していることはわかっています。年金もデンマークに三年以上住めばすべての国民に支給されるので老後の生活も保障されています。いっぽう、税金が低い高い国として有名な台湾は税が5%です。台湾の税制はシンプルで、かなり分かりやすく、例えば、法人税は十二万台湾元以下が免税対象、十二万台湾元を超えると十七%がかかるというシンプルな仕組みです。相続税・贈与税は10%から20%となっており、免税額も大きいため、日本よりも税金を抑えた相続・贈与ができると分かります。そして日本は世界と比べるとさほど税が高いわけではないのに、増税にものすごく厳しいです。税が二十五%のスウェーデンを例にとると、国民の税負担はかなり重いですが、徴収された税がきちんと国民一人ひとりの福祉のために使われているという実感がありません。自分に何か問題が起こっても、国が守ってくれる」という安心感を国民は持っています。税金で安心感を買っていると考えてもいいでしょう。一方、日本の場合は、税金によって自分が支えられているという実感があまりありません。高齢者や生活困窮者などへの福祉は手厚いイメージがありますが、その分、ほかの多数の国民は、自分たちは恩恵を受けていないという不公平感を持っているのです。

このことから私は、それぞれの国の税金には、違ったよさがあることが分かりました。しかし、今の日本にとって一番良い税は何なのか分かりません。これからの私の心の中に残りつづける疑問だと思います。そろそろ手が疲れてきたので、絶対伝えたい事の一つ。世界の税はおもしろい。